

Title	大規模小売業における多角化誘因分析
Sub Title	
Author	中内潤(Nakauchi, Jiyun) 小林規威
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1979
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001979-0041">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001979-0041</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名	中 内 潤	主査 小 林 規 威 教授
		副査 和 田 充 夫 助教授
所属ゼミナール	和 田 充 夫 研	古 川 公 成 助教授

## 大規模小売業における多角化誘因分析

本研究は「小売業において、多角化行動決定に関する経営者の思考が業績にどのような影響を与えていたか」という問題に焦点を当てている。

従来の多角化行動の誘因に関する研究はすべて製造業中心のものであり、またその誘因も経済的な目標と実績とのギャップを埋めるためのものと理解されてきた。しかし、企業の戦略は経済的な目標の達成のみのために構築されるものではなく、戦略行動には他のさまざまな誘因も存在しうると考えられる。

そこで本研究では、経営者の多角化行動決定への誘因を外部環境からの圧力や企業内部の問題を解消するためのものと、それら圧力や問題のない状態から行われるものとの2つに大別し、「外部環境からの圧力や企業内部の問題がない状態で多角化した方が業績が良い」という仮説的命題に基づき、実地調査を行なった。

実地調査に当っては、調査対象小売業としてアメリカの大手小売業50社をその母集団として、その経営者に自社の多角化の誘因に関する意識調査を行なった。

その結果「特に利益面において外部環境からの圧力や企業内部の問題がない状態で多角化した方が業績が良い」という結論を得たため、今後的小売業の多角化に関する経営者の意思決定に関して次のような提言を行なった。「多角化は経済的な目標達成のための一手段として用いられるべきものではない。」